

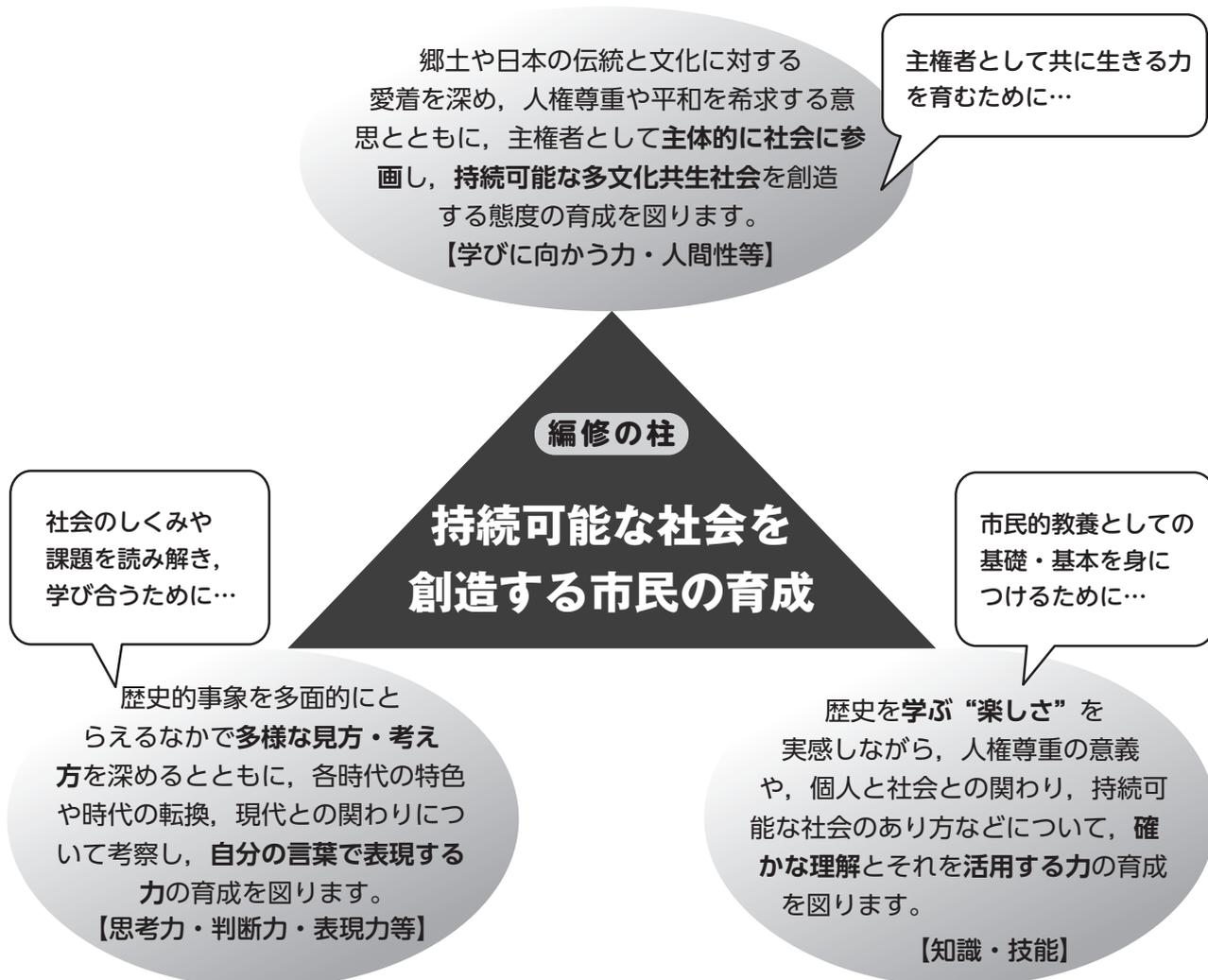
# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-25	中学校	社会	歴史的分野	1-3
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	歴史 706	中学社会 歴史 未来をひらく		

## 1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法に示された「教育の目標（第2条の第1～第5号）」と、学習指導要領に示された「歴史的分野の目標」を達成し、社会科のねらいである「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する」ことを目指して、以下の柱と三つの方針に基づき編修しています。



## 【編修の趣旨及び留意点】

本教科書は、教育基本法第2条に示された教育の目標及び学習指導要領に示された歴史的分野の目標を達成するために、以下の趣旨に基づき編修しています。

### ◆市民的教養としての基礎・基本が身につく教科書

- 生徒が、市民社会を共に築いていくうえで必要な知識や技能を、自らの関心・意欲に沿って無理なく習得することや、その後の学習や社会生活の様々な場面に応じて活用することができます。
- 生徒が、歴史的な見方・考え方を働かせ、他者とのコミュニケーションを通じて、自分の言葉で表現する力を涵養し、社会や歴史についての理解を深め合うことができます。



▲p.57 「古代の文化について説明しよう」



▲p.7 「歴史にアプローチ」

➡「歴史にアプローチ」では、小学校で活用した「社会科の（社会的な）見方・考え方」を振り返るとともに、歴史学習の中で自覚的に見方・考え方を働かせるための方法を学びます。各章末の「学習のまとめと表現」では、その時代を大観して特色をとらえ、言葉や図に表現する活動に取り組みます。こうした学習を通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うようにしています。

### ◆現代社会のしくみや課題を読み解き、学び合う教科書

- 生徒が、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら、国際的な見地からも多面的・多角的に考察し、情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養うことができます。
- 生徒が、歴史的な見方・考え方を働かせて学習を進めるなかで、社会や世界をとらえ直し、自己との関わりを考えて、今日的な課題の所在やその解決について探究することができます。
- ➡例えばp.268～269の「隣国と向き合うために」では、日本の領土をめぐる今日的課題やその歴史的経緯についても認識を深めます。こうした学習を通して、自国とともに他国も尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしています。



▲p.269 「隣国と向き合うために」

## ◆主権者として共に生きる力を育む教科書

- 生徒が、自らも社会を形成していく市民の一人であることへの自覚を高めることができます。
- 生徒が、責任ある主権者として社会に参画しようとする意思を培い、多文化共生と持続可能な社会の創造を目ざして、社会と関わり続けることができます。

▶「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう」(p.289～291)では、これからの社会を築いていくために、自分たちには何ができるのかを考察・構想します。こうした学習を通して、**公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う**ようにしています。

また、本教科書は、特に以下の点にも留意して、単元構成や教材の選定を行っています。

### ●社会を動かしてきた先人の働きや、民衆の営み、人々が受け継いできた多様な伝統・文化を主体的に学べる教科書

▶本文だけでなく特設など多様な教材を通して、**伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養う**とともに、**個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う**ようにしています。



▲p.289「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう」



▲巻頭①・②「私たちに繋がる歴史」

## 2. 対照表

図書の内容・構成と、**教育基本法第2条の第1号から第5号**との対応を示します。

教育基本法第2条

- <第1号> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- <第2号> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- <第3号> 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- <第4号> 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- <第5号> 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。



<p>第7章 現代の日本と世界 学習を始めよう</p> <p>1節 日本の民主化と冷戦 2節 世界の多極化と日本 3節 冷戦の終結とこれからの日本 学習のまとめと表現</p>	<p>○人類の生命と安全への脅威である核兵器の廃絶に取り組む人々や、日本でのオリンピック開催にむけた取り組みを通して、平和を希求することの意義について考察が深まるようにしました。〈第4, 5号〉</p> <p>○日本式点字を開発した人物を紹介するとともに、点字についての理解を促す資料を掲載し、共に生きる社会のあり方について関心が高まるように工夫しました。〈第2, 3号〉</p> <p>○日本固有の領土である北方領土や竹島、尖閣諸島をめぐる課題を詳しく取り上げ、対立の現状やその歴史的経緯、平和的解決へのあり方についての認識が深まるようにしました。〈第1, 5号〉</p>	<p>p.282 ~ 285</p> <p>p.285</p> <p>p.268 ~ 269</p>
<p>歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう</p>	<p>○これからの社会を築いていくために、社会とどのように関わればよいのかを考察する学習活動を最後に設定し、公的分野の学習への橋渡しが図られるように構成しました。〈第3号〉</p> <p>○世界地図の歴史や、郷土の代表的な文化財・旧跡を紹介し、科学的真理の探究や、文化遺産の保全について素養が深まるように工夫しました。〈第1, 5号〉</p>	<p>p.289 ~ 291</p> <p>巻末④～⑥</p>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

本教科書は、教育基本法に示された義務教育の目的や、学校教育法に示された義務教育の目標などを達成するために、特に以下の点に意を用いて編修しています。

#### 特色1 見やすく、わかりやすい紙面

- \*教科書の紙面は、ワイドで見やすいA B判を採用し、授業展開や学習の見通しがつきやすい「1時間＝見開き2ページ」で構成しています。
- \*興味・関心を高める写真・絵などの資料も豊富に、かつ効果的に配置しています。

#### 特色2 小学校の歴史学習との接続・関連

- \*第1章では、小学校で学習した歴史上の人物や文化遺産を振り返りながら、時代区分や年表の見方を確かめる活動や、身近な地域の歴史を調べる学習の例示などを位置づけ、中学校第1学年へのスムーズな接続が図られるようにしています。

#### 特色3 ユニバーサルデザインへの配慮

- \*色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色（カラーユニバーサルデザイン）やレイアウト、表現方法、文字（ユニバーサルデザインフォント）などの工夫により、すべての生徒にとって学びやすい紙面づくりに配慮しています。

#### 特色4 地球となかよし

- \*教科書の印刷には、環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用し、地球環境への負荷軽減に配慮しています。また、印刷にはグリーン電力を使用しています。



▲p.2「歴史の流れをとらえよう」

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

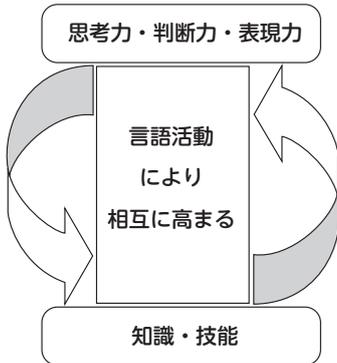
受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-25	中学校	社会	歴史的分野	1-3
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	歴史 706	中学社会 歴史 未来をひらく		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

本教科書は、学習指導要領に示された社会科の目標及び内容、内容の取扱いに準拠しつつ、教科と歴史的分野の改訂の要点などをふまえて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、特に以下の点に意を用いて編修しています。

### ◆ 「歴史的分野の改訂の要点」からみた特色

①歴史について考察する力や説明する力の育成の重視



▶▼p.151 「フランス革命」

**確認!** 独立宣言と人権宣言を読んで、共通する言葉をあげよう。

**表現!** アメリカ合衆国は、どのような人たちによって建国されたか、背景をふまえて説明しよう。

- 社会科の基礎的・基本的な技能の習得を図るために、本文の学習の流れに即して、歴史資料の読み解きを示唆する「読み解こう」や「Q」などの問いを設け、時代の特色を考察する学習活動を重視しました。写真・絵・地図・グラフ・文書などの多様な資料について、具体的な手がかりや問いかけをもとに取り組むなかで、**資料を活用する技能**が身につくように配慮しています。
- 本文の学習ごとに、学習課題と対応させた「確認」「表現」のコーナーを設けました。この時間で学習したことをもとに、「確認」では基礎的事項の確認・整理に、「表現」では歴史的事象についての説明や話し合いなどの表現活動に、段階的に取り組めるように工夫しています。

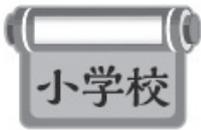
**読み解こう**

- ①左の絵で、平民を表しているのは、どの人物だろう。
- ②石は、何を意味しているのだろう。
- ③左右の絵を用いて、革命による社会の変化を説明してみよう。

**5** フランス革命前の社会(左)と、革命が目ざす社会(右)を描いた風刺画。3人の人物は、聖職者・貴族・平民を表しています。

**6** バスティュー牢獄の襲撃。1789年、武器をうばったパリの民衆が、政治犯を収容した牢獄で、狂気の象徴とされたバスティューを襲いました。

- 各章末の「学習のまとめと表現」のページでも、**歴史的な見方・考え方を働かせて**、時代の特色を**自分なりの言葉で説明する**活動を取り入れました。



▲本文中に登場する人物について、小学校で学習した人物にはマークを付けてわかるようにしています。

## ②歴史学習の構造化と焦点化

- 第1章の「歴史の流れをとらえよう」では、**小学校第6学年の歴史学習との接続・関連**を図るために、歴史上の人物などを焦点化して取り上げ、作業活動を通して時代の区分と移り変わりを概観できるように配慮しています。
- 巻末に掲載した**歴史年表は、原始・古代から現代までを通して一覧**できる見開きの折込で構成し、時代の移り変わりや現在からの時間的な距離をつかみやすいように工夫しています。
- 歴史的分野の内容を系統的かつ効果的に学習できるように、全体を7つの章に分けています。節のまとまりや単元の配列を工夫することで、**各時代の特色をとらえ、歴史の大きな流れをつかみやすいように構成**しています。
- 各章の扉に続く導入ページの「**学習を始めよう**」では、その時代を象徴するような資料とそれに関わる問いを示し、これから学習する**時代(章)を概観**するとともに、見通しをもって学習を進められるようにしています。
- 各章末に設けた「**学習のまとめと表現**」のページでは、**時代の移り変わりを大観**する構造図を掲載するとともに、その**時代の特色**について考察・表現する活動の例を示しました。このページは、次の章の扉と合わせ、**時代の変化**に着目する学習の導入として扱うことができるように工夫しています。

### 学習を始めよう ～中世の暮らしと社会～

幅島の市(『寛政重修諸家譜』)

上の絵は、中世に新しい仏教の布教のために旅をした。この場面では、一帯が訪れています。絵の中には、どこの市にいる人たちはどのような様子でしょうか。これから学習してみよう。

- ◎1 一帯は何をしているのでしょうか。
- ◎2 市では何が売られているでしょうか。また、絵の中をみましょう。
- ◎3 中世にはどのような人々が活躍したか予想してみましょう。

「一帯の向かいにいる人はだれだろう。」

「市ではいろいろな物が売られているね。品物はどうやって運ばれたのかな。」

**中世の職人たち**  
(『寛政重修諸家譜』)

① 中世の「政治」「外国との関係」「文化」について、学習した内容を表に記入しよう。

② 中世の「政治」「外国との関係」「文化」について、下のキーワードを参考にして、学習した内容を表に記入しよう。

③ 二つの時代を比較して、中世の特色を考えよう。

①

②

③

▲p.60～61 「学習を始めよう ～中世の暮らしと社会」

▶p.94～95 中世の「学習のまとめと表現」と近世の「扉」

**中世の時代の特徴を考えよう。**

◎ 中世の特色について、古代からどのような変化が生まれたのかを表にまとめて考えてみよう。

	古代(例)	中世
政治	- 天皇や貴族が中心になり、政治を行う。 - 中央集権的な国家のしくみが整う。	① 古代の「政治」「外国との関係」「文化」について、学習した内容を表に記入しよう。 ② 中世の「政治」「外国との関係」「文化」について、下のキーワードを参考にして、学習した内容を表に記入しよう。 ③ 二つの時代を比較して、中世の特色を考えよう。
外国との関係	- 遣隋使や遣唐使によって、大陸の文化や技術が伝わる。	① 古代の「政治」「外国との関係」「文化」について、学習した内容を表に記入しよう。 ② 中世の「政治」「外国との関係」「文化」について、下のキーワードを参考にして、学習した内容を表に記入しよう。 ③ 二つの時代を比較して、中世の特色を考えよう。
文化	- 大陸の文化に影響を受け、仏教が大陸や東洋に傳られる。 - 大陸の文化を模倣し、しだいに日本独自の文化が生まれる。	① 古代の「政治」「外国との関係」「文化」について、学習した内容を表に記入しよう。 ② 中世の「政治」「外国との関係」「文化」について、下のキーワードを参考にして、学習した内容を表に記入しよう。 ③ 二つの時代を比較して、中世の特色を考えよう。

【キーワード】武士、幕府、寺僧、織田信長、徳川家康、徳川幕府、新しい仏教、農民、海運

### 第4章 近世の日本と世界

江戸城の堀は堀で囲まれているね。どうしてかな。

上の絵は、17世紀前半の江戸城とその周辺の様子です。左の貨幣は、17世紀の頃に作られたもので、全国で使われるようになった。このような変化がなぜ起こったのか、学習してみましょう。

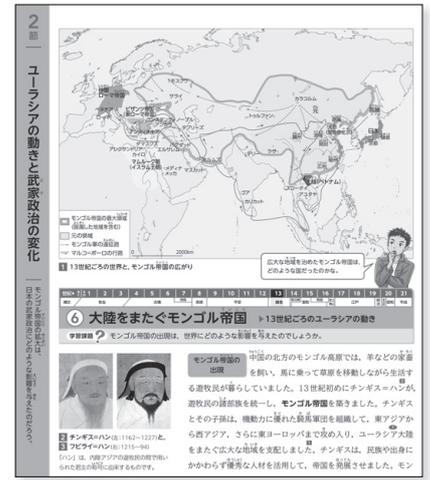
**これから学習する時代**

年代	1500	1600	1700	1800	1850
日本	室町時代	安土・桃山時代	徳川幕府	徳川幕府	徳川幕府
中国	明	清	清	清	清
朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮

2

③日本の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの充実

- 各節の単元構成を、基本的に「世界の動き→日本の動き」の順で配列し、時代背景を大局的におさえながら学習できるように配慮しました。
- 元寇の背景となるユーラシアの変化や、ヨーロッパ人来航の背景となるムスリム商人の役割など、日本の歴史に影響を与えた世界の歴史について、内容を拡充して扱うようにしています。



▲p.72 「大陸をまたぐモンゴル帝国」

④主権者育成の観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどについての学習の充実

- 古代ギリシャ・ローマ文明の民主政治の来歴や、近代ヨーロッパでの「市民革命」の中での政治体制の変化や人権思想の発達、現代日本での男女普通選挙の確立や日本国憲法の制定など、各時代の中で現在の政治制度や人権意識につながる事項について、内容を拡充して扱うようにしています。



▲p.182 「植木枝盛と中江兆民」

⑤様々な伝統や文化の学習内容の充実



▲教科書中に出てくる文化財のマーク

- 各時代の文化については、十分なページを充て、それぞれの特色をとらえることのできる資料を豊富に掲載しました。特に**国宝**や**重要文化財**に指定されている文化財や、**世界遺産**に登録されている遺跡や景観などについては、わかりやすい「マーク」を付けて紹介し、日本の伝統的な文化とともに、世界の多様な文化についても理解を深めることができるように配慮しています。
- 「身近な地域の歴史」を調べる学習は、第1章及び各時代に設定し、郷土の伝統・文化への関心を高める着眼点を紹介したり、学び方の手がかりを「**地域調査の手引き**」として示唆したりするとともに、巻末には、地域の主な遺跡・史跡を一覧できる資料も掲載しました。
- 様々な伝統や文化のなかでも、**琉球の文化**や**アイヌの文化**について、各時代の学習の中で内容を拡充して扱うようにしています。

◆「教科書の構成や造本」からみた特色

①基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図る構成

- 本文紙面は、ワイドで見やすい**A B判**を採用し、授業の流れや学習の見通しをつかみやすいように、**1時間の授業を見開き2ページ**で構成しました。左上部に、学習の導入または中心となる資料を配置し、キャラクターの問いから学習を展開していく形式としています。

世紀 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7  
縄文 | 弥生 | 古墳 | 飛鳥

# 11 律令国家への歩み

学習課題？ 大化の改新をきっかけに、国家

①年号(元号)が、継続して用いられるようになるのは、701年の「大宝」からです。

皇室の系図は、天武天皇(大友皇子)から始まり、天智天皇(孝徳)、天武天皇(持統)、天智天皇(元明)、天武天皇(元正)、天智天皇(文徳)、天智天皇(相武)へと続きます。

◆【解説】天皇・日本  
「大王」に代わり「天皇」という称号が用いられるようになったのは、国の政治が整えられた天武天皇のころと考えられていますが、推古天皇(←p.40)のころからとする説もあります。大宝律令では「日本」という国号が用いられ、702年の遣唐使が唐に伝えました。

▲p.42 「タイトルと時代スケール」  
「側注と◆解説」

大化の改新をきっかけに、国家のしくみはどのように変わっていったのでしょうか。

大化の改新 7世紀の中ごろ、中国で唐が国力を強め、高句麗への攻撃を始めると、東アジアの覇権が高まりました。唐廷では、唐にならった中央集権の国家をつくり、唐や朝鮮半島の国々に対抗しようとする動きが強まりました。唐廷の死後、蘇我氏が権力を強めて政治を独占していました。645年、中大兄皇子や中臣鎌足(後の藤原鎌足)らは、蘇我氏を倒し、中国から帰った留学生らの協力も得て、政治の改革を始めました。この年、初めて「大化」という年号を定めたとされています。この改革を大化の改新といいます。朝廷は、それまで皇族や豪族が支配していた土地と人民を、国家が直接支配し(公地公民)、税の制度を整えることなどを旨としました。

大化の改新 7世紀の中ごろ、中国で唐が国力を強め、高句麗への攻撃を始めると、東アジアの覇権が高まりました。唐廷では、唐にならった中央集権の国家をつくり、唐や朝鮮半島の国々に対抗しようとする動きが強まりました。唐廷の死後、蘇我氏が権力を強めて政治を独占していました。645年、中大兄皇子や中臣鎌足(後の藤原鎌足)らは、蘇我氏を倒し、中国から帰った留学生らの協力も得て、政治の改革を始めました。この年、初めて「大化」という年号を定めたとされています。この改革を大化の改新といいます。朝廷は、それまで皇族や豪族が支配していた土地と人民を、国家が直接支配し(公地公民)、税の制度を整えることなどを旨としました。

大化の改新 7世紀の中ごろ、中国で唐が国力を強め、高句麗への攻撃を始めると、東アジアの覇権が高まりました。唐廷では、唐にならった中央集権の国家をつくり、唐や朝鮮半島の国々に対抗しようとする動きが強まりました。唐廷の死後、蘇我氏が権力を強めて政治を独占していました。645年、中大兄皇子や中臣鎌足(後の藤原鎌足)らは、蘇我氏を倒し、中国から帰った留学生らの協力も得て、政治の改革を始めました。この年、初めて「大化」という年号を定めたとされています。この改革を大化の改新といいます。朝廷は、それまで皇族や豪族が支配していた土地と人民を、国家が直接支配し(公地公民)、税の制度を整えることなどを旨としました。

- タイトルには、学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習事項を示す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識をもって学習に取り組めるようにしました。
- 各時間に表示した「時代スケール」により、これから学習する時代を視覚的につかめるようにしたほか、小見出しと太字の重要語句から学習のポイントをつかみやすいように工夫しています。
- 難解な用語や補足説明の必要な箇所には、側注や「◆解説」による説明を設け、生徒の理解への一助となるよう配慮しました。本文中には、資料との関連を示す番号や、前出・後出箇所との関連を示す参照ページも挿入しています。
- 本文の学習から興味や関心を広げていくコラム「歴史の窓」や、歴史を様々な側面から掘り下げていくテーマ学習のページを設け、個人やグループで学びを深めていくことへの対応も保障しています。
- 本文の学習の中に「歴史の技」コーナーを適宜設け、資料の活用に関わる問いを通じて、歴史学習の基本的な技能を身に付けられるよう配慮しています。

②個人やグループでの学習活動への対応

## 歴史の技

### 狂歌を読み取ろう

民衆は、滑稽や政治批判を取り入れた短歌(狂歌)をよみました。この狂歌からは、当時の政治を人々がどのように見ていたかを読み取ることができます。

①一と二の狂歌は、それぞれ田沼と松平のどちらの時代のことをよんだものだろう。

②三の狂歌は、どのようなことを風刺しているだろう。狂歌の意味を自分らの言葉で説明しよう。

▲p.135 「歴史の技 ~狂歌を読み取ろう」

③学びを広げ、深めるためのインターネットの活用

- 教科書と当社ウェブサイトをリンクさせ、学習に役立つ様々な情報を得ることができ「まなびリンク」を設けました。
- 個人でさらに追究したり、グループで調べ学習を進めたりする際の有用な情報の収集などに役立ちます。

▼p.273 「歴史の窓 ~ゴジラが見た日本社会」

## 歴史の窓 ゴジラが見た日本社会

怪獣映画「ゴジラ」の第1作は、1954年11月に公開されました。ゴジラは、南太平洋の海底で生き残った太古の恐竜で、水爆実験によって眠りから覚め、水爆のエネルギーを体につめた怪獣となって人類を襲うという設定でした。同年3月には、アメリカが太平洋のビキニ環礁で水爆実験を行って、日本のマゴロ漁船第五福丸が被ばくし、原水爆禁止運動が高まっていました(←p.263)。冷戦下の核開発と、反核運動の高まりの中で映画は公開されたのです。

1971年に公開された第11作「ゴジラ対ヘドラ」は、汚染された海のヘドロを食べる巨大化する怪獣ヘドラとゴジラが戦う設定で、高度経済成長期に発生した公害問題(←p.271)を背景にしています。エンターテインメント性の高い特撮映画にも、当時の社会問題が映し出されています。

▶ 映画「ゴジラ対ヘドラ」のポスター



## 2. 対照表

教科書の単元配列	【配当時数】	学習指導要領の内容	該当箇所
<b>第1章 歴史のとらえ方・調べ方</b> 1節 私たちと歴史 2節 身近な地域の歴史	<b>【6】</b> 3 3	A(1) A(2)	p.2 p.2～9 p.10～16
<b>第2章 原始・古代の日本と世界</b> 学習を始めよう ～原始・古代の暮らしと社会 1節 人類の出現と文明のおこり 2節 日本の成り立ちと倭の王権 3節 大帝国の出現と律令国家の形成 4節 貴族社会の発展 学習のまとめと表現	<b>【20】</b> 1 5 4 3 5 2	B(1) B(1) B(1) B(1) B(1) B(1)	p.17 p.18～19 p.20～29 p.30～37 p.38～43 p.44～55 p.56～58
<b>第3章 中世の日本と世界</b> 学習を始めよう ～中世の暮らしと社会 1節 武家政治の始まり 2節 ユーラシアの動きと武家政治の変化 3節 結びつく民衆と下剋上の社会 学習のまとめと表現	<b>【17】</b> 1 5 5 4 2	B(2) B(2) B(2) B(2) B(2)	p.59 p.60～61 p.62～71 p.72～81 p.82～91 p.92～94
<b>第4章 近世の日本と世界</b> 学習を始めよう ～近世の暮らしと社会 1節 結びつく世界との出会い 2節 天下統一への歩み 3節 幕藩体制の確立と鎖国 4節 経済の成長と幕政の改革 学習のまとめと表現	<b>【22】</b> 1 4 3 5 7 2	B(3) B(3) B(3) B(3) B(3) B(3)	p.95 p.96～97 p.98～107 p.108～113 p.114～125 p.126～141 p.142～144
<b>第5章 日本の近代化と国際社会</b> 学習を始めよう ～近代の暮らしと社会 1節 近代世界の確立とアジア 2節 開国と幕府政治の終わり 3節 明治維新と立憲国家への歩み 4節 激動する東アジアと日清・日露戦争 5節 近代の産業と文化の発展 学習のまとめと表現	<b>【28】</b> 1 5 3 8 5 4 2	C(1) C(1) C(1) C(1) C(1) C(1) C(1)	p.145 p.146～147 p.148～159 p.160～167 p.168～185 p.186～195 p.196～203 p.204～206
<b>第6章 二度の世界大戦と日本</b> 学習を始めよう ～大正・昭和初期の暮らしと社会 1節 第一次世界大戦と民族独立の動き 2節 大正デモクラシー 3節 恐慌から戦争へ 4節 第二次世界大戦と日本の敗戦 学習のまとめと表現	<b>【22】</b> 1 5 4 5 5 2	C(1) C(1) C(1) C(1) C(1) C(1)	p.207 p.208～209 p.210～219 p.220～227 p.228～239 p.240～249 p.250～252
<b>第7章 現代の日本と世界</b> 学習を始めよう ～現代の暮らしと社会 1節 日本の民主化と冷戦 2節 世界の多極化と日本 3節 冷戦の終結とこれからの日本 学習のまとめと表現	<b>【17】</b> 1 4 5 5 2	C(2) C(2) C(2) C(2) C(2)	p.253 p.254～255 p.256～263 p.264～275 p.276～285 p.286～288
歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう	<b>3</b>	C(2)	p.289～291
巻末資料：江戸時代の産業と交通／昔の国と、都道府県の対照図 歴史年表 世界地図の歴史 各地の主な遺跡・史跡・できごと	<b>計135</b>		巻末① 巻末②～③ 巻末④ 巻末⑤～⑥